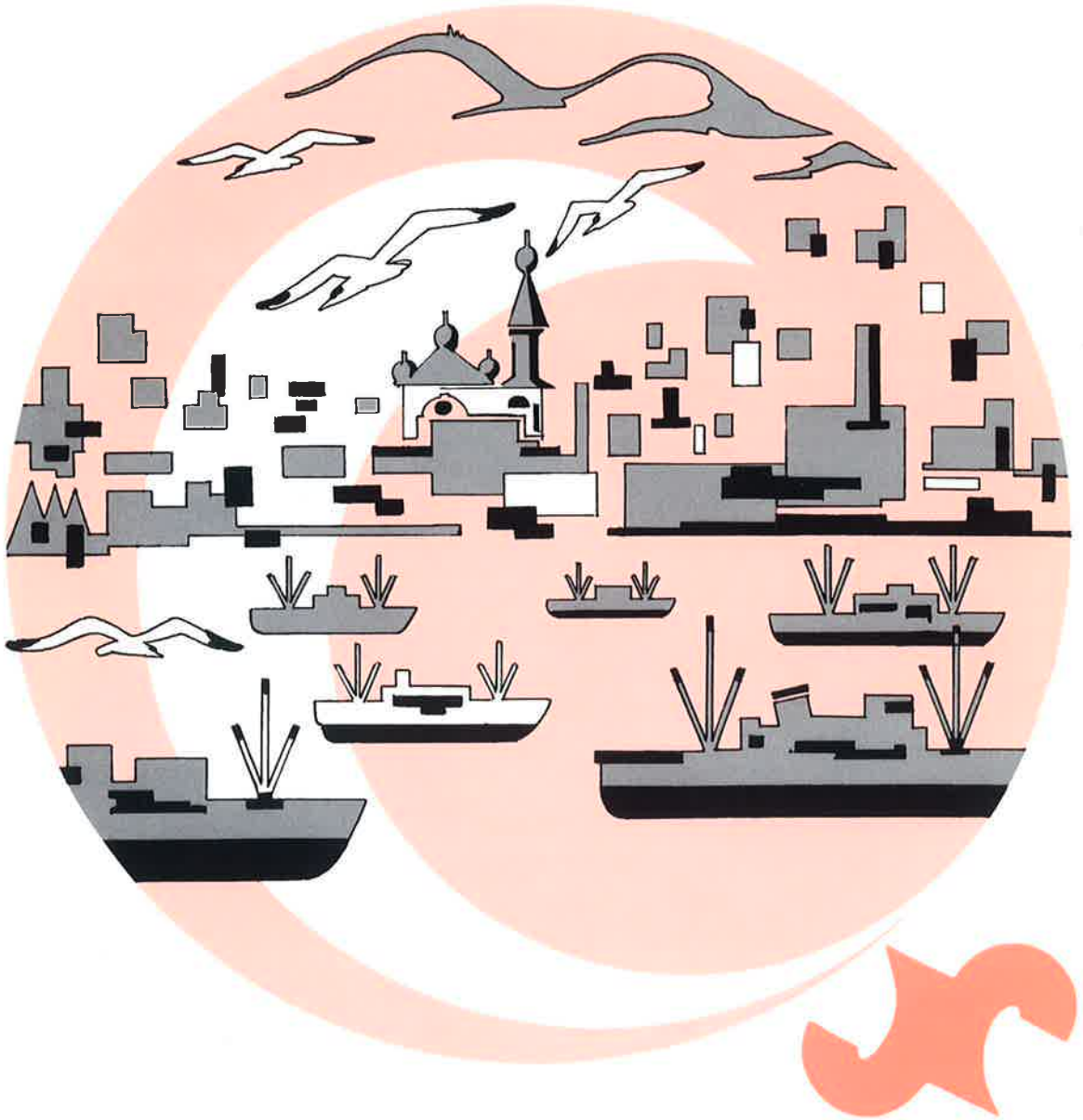


ともしえ

No. 23



親しめる 頼れる
みんなの商工会議所

■函館商工会議所報■

1982 8月号

函館商工会議所の 生命共済にご加入を

—— 当所会員企業の経営者、従業員のための供済制度 ——

月額600円の掛金で100万円の保障

掛金は700円が600円になりました。

安い掛金で高額保障

■ 制度の内容 ■

保障額と掛金

保 險 口 数	保 險 金 額	保 障 内 容 月 額 掛 金	病 気 による 死 亡 高 度 障 害	不慮の事故ま たは法定伝染 病による死亡	不慮の事故で 別表の障害を 受けたとき	不慮の事故で 入院したとき 5日以上120日 まで
			死 高 度 障 害 保 険	災 害 保 険 金 プ ラ ス 死 亡 保 険 金	障 害 給 付 金	入 院 給 付 金
2口	100万円	600円	100万円	200万円	100円～10万円	入院1日につき 1,500円
4口	200万円	1,200円	200万円	400万円	200円～10万円	3,000円
6口	300万円	1,800円	300万円	600万円	300円～10万円	4,500円
8口	400万円	2,400円	400万円	800万円	400円～10万円	6,000円
10口	500万円	3,000円	500万円	1,000万円	500円～10万円	7,500円

注) 1. 最低保険金額は100万円です。尚新規加入、増額100万円単位です。
2. 掛金は年令に関係なく一律です。

●お問い合わせは **函館商工会議所** 経理会員課へ ☎23-1181

●委託保険会社（幹事）

三井生命保険(相互)函館支社 ☎22-3323

大同生命保険(相互)函館支社 ☎23-4541

日本団体生命保険(株)札幌支店 ☎(011)231-1777

住友生命保険(相互)函館支社 ☎55-0311

千代田生命保険(相互)函館支社 ☎22-5191

東邦生命保険(相互)函館支社 ☎26-5533

第一生命保険(相互)函館支社 ☎55-1131

通産省は八月五日テクノポリス建設について全国十九の候補地すべてを開発構想策定地域に指定する方針を決めました。但し、函館など六候補地は基盤整備が遅れている点を指摘しての選定という結果でありました。開発構想の指定は、本格的な建設に踏み出す五十八年度のテクノポリス地域指定を前にした、いわば第一関門であり、函館地域も今後の地域指定に向けて開発構想の具体的な計画策定と条件整備に全力を尽すべきときであると思います。

今回の判定は、先端技術の地方振興と公共投資など国の予算に頼らない自立的な地方経済の発展という前提から一、産業、学術、住居三つの空間の環境整備
二、企業、研究機関の誘致活動や地域の協力体制
三、通産省から見て開発構想が実現可能かの判断
これらが基準として検討されて参りました。

函館は道レベルでの支援体制がいま一步の段階という指摘を受け、また更に現状では学術研究機能の集積が弱く、地域産業が転換を迫られており、公設試験研究機関の強化、新たな研究機関の設置など、学術研究機能の強化、新規産業の導入、育成に必要な条件整備の具体策を開発構想の中で、明らかにしていく必要がある、との指摘を受けました。地域指定は環境の整った地域から順次優先指定する可能性もあるとのこと、当該地域としては、指摘を受けた条件整備を積極的に地域をあげての協力体制のもとに実行し、一日も早く地域指定を獲得するよう努力しなければなりません。

中核的工業団地の建設、工業技術センターの建設、既存産業との連携強化、市企業誘致室の活躍などが現下の急務であります。

二十一世紀型都市ビジョンである北方圏型テクノポリスをなんとしても函館に実現しようではありませんか。

目 次 ———— ● ともえ 1982 8月号 No.23 ● ————

巻 頭 言	1
会議所だより	2～5
○ 2号議員選任	
○ 日本経済団体連合会主脳との経済懇談会	
○ 陳情・要望活動	
○ 開港124年記念函館港まつり1万人踊りパレード	
○ 議員会産業経済視察	
○ 市制施行60周年記念式典社会頭感謝状受彰	
○ 第34回函館地区珠算競技大会	
調査レポート	6～9
○ 金融経済概況（6月）日本銀行函館支店	
○ 統計資料 大型店売上高（6月）	
○ 経済の窓 函館における中小企業景況調査報告（昭和57年6月）第1・四半期	
アドバイスコーナー	10～11
特別寄稿文	中国を旅して(6) 平沼智子 12～13
ご存じですか	14～15
ご 紹 介	16
○ 振興委員プロフィール	
○ 協同組合函館御センター	
事務局日誌（7月）	17
相談所だより	17
ティータイム	18～19
告 知 板	20



会議所

だより

2号議員32人決まる

食品商工部会など十部会で選任

本所では既に、次期本所議員（任期五十七年十月から六十年九月）を決める改選日程に入っておりますが、三号議員十四人選任（本誌七月

2号議員名簿（昭和五十七年八月二十三日告示）

部会名	会社名	代表者名	部会名	会社名	代表者名
食品商工 (定数3人)	美鈴商事(株) 北海道乳業(株) カネマル	鈴木武二 田島久三 下郡山信一	第二工業 (定数4人)	合容器(株) 松本組 テーパー小笠原組	佐藤亀吉 松本演之 小笠原金悦 加藤憲
繊維商業 (定数4人)	(株)竹田 (株)ほてい (株)竹田留治 白崎豊治	竹田留治 白崎豊治	農水産 (定数3人)	(株)函館水産振興公社 野村水産工業(株) 北海道水産製造(株)函館支店	森岡宜勝 野村宜市 高野洋蔵
小売商業 (定数3人)	(株)細野商事 (株)宝里 屋タ	細野隆蔵 菅田純一 菅田純一	運輸貿易倉庫 (定数2人)	函館輸出入協同組合	近藤敏夫 阿部文男
卸商業 (定数4人)	辻木材(株) 東栄産(株) 第二物産(株) ダイカ(株)	辻才次郎 田中仁 棟方忠 大方総一郎	理財 (定数2人)	函館商工信用組合 函館観光不動産	西野吉一 秋本一
第一工業 (定数2人)	ベーンケイ工所(株) 村瀬鉄工所(株)	飯田貢一 瀬田順一郎	観光サービス (定数5人)	鈴屋商事(株) 函館ボーリングセンター (株)花びしホテル (有)湯の浜ホテル (株)湯の川ランドホテル	平形由実 信田敏 西村敏雄 金道義雄 渡邊秀昭

れました。
なお、二号議員は「議員選挙及び選任規約」に基づき、去る七月十日開催の常議員会（議員総会附託事項）で決められた部会別割当数三十二人について、八月一日現在における部会所属の部会員の中から、それぞれ部会を開いて選任するもので、いわば業界推せんによる議員のことを言います。



懇談会であいさつする社会頭

テクノ
リスノ
実現の意義を強調
(川田
副会頭)

経団連主脳との地域懇談会開催

経済団体連合会(経団連)首脳と、当面する問題を話し合う函館地域経済懇談会が、北海道経済連合会(道経連)の主催により七月三十日午後函館国際ホテルで開かれました。

懇談会はテクノポリス構想、行財政改革と地域振興問題をテーマとして、二時間にわたって意見交換をしましたが、地元経済人から「公共工

事の地元へ重点配分してほしい」等の要請に対し、経団連側は「行財政改革の推進が先決」と基本姿勢をかえませんでした。経団連首脳の来函は、五十三年の土光会長(現臨調会長)以来二度目です。

一行は稲山会長はじめ五人の副会長、事務局員など二十人で、道経連から岩本会長、東条副会長、地元から矢野市長ほか社会頭など経済人約五十人が出席しました。

懇談会は、道経連岩本会長、社会頭の挨拶があり、矢野市長が函館市の経済の現況報告と問題点を説明した後、経団連稲山会長は挨拶の中で「世界各国の経済を見るに、今やわが国は、ガマンのときである。臨調の基本答申が出たが、実行には困難や抵抗もあるが、実現すれば破産寸前の国の財政も救われ、日本経済は発展を続けることが出来る」と「ガマンの哲学」と行革への基本姿

勢を示しました。

ついで小笠原テオー小笠原社長司会で懇談に入り、森岡水産連合協議会長から、イカ、鯨、たら等原料の安定確保のため、輸入割当制の撤廃と、魚価安定のため、商社介入の不合理について、田代函館ドック社長から、造船不況時から立直ったことのお礼と関連業界の現況について、また加藤函館建設業協会会長から、青函トンネル関連工事、道縦貫自動車道工事等の地元発注及び早期着工と一般公共工事の傾斜配分について、それぞれ要望しました。最後にメインテーマのテクノポリス問題について、川田副会頭は「八〇年代の地域振興は、新技術の開発と活用がなければならぬ」と述べ、函館がテクノポリスにける期待と意義を強調しました。これに対し、山下副会長は助言として、テクノポリスを考える場合「第一に新技術を開発する能力の有無が本指定の鍵、第二に既存大学や研究機関が企業と密接な連携をとれる体制であること、第三は国際的な協力強化を配慮し、情報伝達の通信コストの低下を図るべきだ」と結びました。

◆◆◆◆◆
陳情・要望活動

○津軽海峡線、陸上工事部分の在来線工事用レール等資材の搬入港に函館港指定について。依然として厳しい経済情勢下にある函館港の港湾関係業界の安定経済対策として、七月二十八日運輸省、国鉄本社、鉄建公団本社、道選出国会議員に対し、市、本所連名で要望しました。

○テクノポリス建設本指定早期実現支援体制の確立及び景気浮揚対策推進について。七月三十日来函した北海道議会商工労働委員会委員長に対し、八〇年代の地域振興を旨指して運動しているテクノポリス建設構想に対し国の本指定早期実現ができるよう、より一層の支援体制の確立を要望するとともに、長期に亘り景気が低迷している当地域に対し、景気浮揚対策を強力に推進するよう要望しました。またこのほか八月十、十一日津軽海峡線陸上部分の在来線強化工事及び開業設備工事の請負、関連資材の発注は地元業界を利用するよう市、本所、青函トンネル資材協会など五団体連名で国鉄北海道総局ほか関係機関に陳情しました。

盛り上った函館港まり

一万人踊りパレード 本所議員ら五十人が参加

開港百二十四年を記念する函館港まつりが、八月一日から一週間華やかに繰りひろげられました。

まつりのメインイベントである五日の「一万人踊りパレード」には七千三百人を超す市民が参加し、史上最高の記録となりましたが、当会議所でも辻会頭（函館港まつり協賛会長）を先頭に議員・婦人会・職員総勢五



一万人踊りパレードに参加する本所チーム

十人が新調の揃いの浴衣姿で参加、今年から登場した新曲「いいんでないかい」の踊りを披露し、まつりの

ムードを盛り上げました。本所チームが駅前にはしゃかると、沿道のビル窓から、五色の紙吹雪が舞い、まつりを一層華かにしました。

また、今年はペリー提督の六代目子孫ティルトン兄妹にニューヨーク在住の来函、浴衣姿で踊りパレードに参加し市民との交流を深めました。

東 北
新 幹 線

の開業で順調な発展

盛岡商工会議所等と懇談

会 議 所
産 業 視 察

本所議員会（会長 榎函織 本間定次郎）では、七月二十五日からの三日間仙台市、盛岡市、青森市を中心に経済産業視察を行いました。この視察は、毎年行われているもので、今回は六月二十三日からの東北新幹線の開業が東北の各都市に与えた影響を実際に確かめたものです。

一行は仙台から盛岡まで開業一か月後の新幹線に乗り盛岡入りし、盛岡商工会議所および駅前に新設された商業ビル「フェザン」関係者との懇談会を行いました。席上関係者からは「人の入り込みは確実に増えて

はいるが、滞留者が少ないのが悩みである。しかし、岡山の事例が参考としてあったので最初から過大な期待もしていなかったため相対的には順調な発展をしている」などシビアな意見交換となりました。また青森では青函トンネルの開通をひとつの起爆材として今後の青函圏の交流を見直すとのテーマで懇談会を開催しましたが、世紀の大工事の完成をきっかけに「記念博覧会」を開催し観光の動員を計ると具体案を示しての懇談であり、今後とも青函圏の交流を活発にすることを再確認しました。

給 食 用
レストラン用

和食、洋食、中華各料理のメニュー開発・食材の合理化に。

業務用食品、専門商社



大槻 食 材 (株)

業務用食品器具卸センター

函館市東雲町7-11 TEL. 26-5131

函館市の経済に功績

市制施行60周年 記念式典 辻会頭感謝状受彰

函館市は八月一日、大正十一年（西暦一九二二年）の市制施行から六十周年を迎えました。この日六十周年記念式典が市民会館で盛大に行われ、約千三百人の市民が出席し祝いました。

式典では、各分野において市政発展に尽くした三十三人を表彰、また永年市の経済振興に尽力した社会頭（個人）をはじめ千七十七人にそれぞれ感謝状が贈られました。

ここで函館市の歩みを振り返ってみますと、明治二年箱館戦争終了後、エゾ地が「北海道」と改められ、開拓出張所が開庁されて「箱館」が函館に改字されました。その後自治制により函館区となり、大正十一年八月一日、札幌、小樽、旭川、室蘭、釧路とともに市制が施行されました。当時の人口は十四万七千人と言われ、道内一の人口規模を誇り、昭和十年頃まで堅持しておりました。これは北洋漁業の飛躍的發展と、天然

の良港として対岸貿易の活発化により、本市の経済的勢力を拡大してきたためであります。しかし戦後は、札幌市を中心とした道央へ経済力が

集中する傾向が高まっており、本市も二十一世紀に向けて新しい都市づくりとして、現在、テクノポリス構想の実現を目指しており、市民一体となって実現に向け推進する姿勢が、市制施行六十周年の区切り点として是非のぞまれるところであります。

「そろばん函館一」 山口佳代子さん 「中学生一」には尾山珠生さん

函館地区
珠算競技会

本所主催による第三十五回函館地区珠算競技大会が七月十八日本所で開催されました。

今回の大会には、選手九十五人が参加し、それぞれ、一般の部・高校の部・中学生の部・小学生の部にわかれて技を競い合いました。

競技種目は、乗算、除算、見取算、見取暗算、伝票算、応用計算、読上暗算、読上算の八種目が行われ、そのうち総合競技の上位入賞者は、今年九月十二日に札幌市で開催される全道珠算競技大会に函館地区代表の選手として出場する

ことになっていきます。

競技の結果「そろばん函館一」には山口佳代子さん、「そろばん中学生一」には尾山珠生さんが二年連続の栄誉に輝きました。

入賞者（一位のみ）は次の通り
△団体▽◎高校の部 函館商業高校、◎中学校の部 戸倉中学校
△個人▽◎一般の部 山口佳代子（山口塾） ◎高校の部 斎藤由美子（函館商業） ◎中学生の部 尾山珠生（五稜中） ◎小学生の部 日沼祐子（上湯川小）

以上敬称略

◆Lサイズファッション◆ **モリヤ MORIYA**

有限会社 守屋

●十字街店/TEL.22-0007
末広町5の10
●朝市駅二店/TEL.23-4441
若松町9の19

年を上回る荷動きをみせている。

3. 金融事情（6月中）

○管内金融機関の実質預金は、法人流動性預金の月末滞留を主因に月中152億円の増加（前年同76億円）。

一方貸出は、地方公共団体からの回収が嵩んだほか、全般に資金需要は低調ながら、金融機関が自動車ディーラーの増運資金等を中心に積極応需の構えをみせたこともあって、月中28億円の増加（前年同23億円）。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は月中-0.026%と小幅低下。

なお4～6月通計でみると、実質預金は

法人流動性預金の大幅減少を主因に期中増加額は68億円と前年（同116億円）を4割強下回り、貸出も季節資金や地方公共団体からの回収が嵩んだため、期中減少額は178億円と前年（同115億円）を5割強上回った。

○銀行券は、月初の還流がやや鈍かったうえ、月末にかけてかなりの増発をみたため、月中では29億円の発行超となった（前年同26億円）。

○財政収支をみると、公共事業関係費の支払が前年を下回ったほか、簡保貸付の回収もあって、月中払超額は49億円と前年（同60億円）を下回った。 以上

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高（10店） 昭和57年6月

品 目	売 上 高 (千円)	対 前 月 比 (%)
衣 料 品	2,539,919	103.8
身 回 品	524,540	108.0
雑 貨	740,660	104.3
家 庭 用 品	574,589	93.3
食 料 品	1,463,699	95.9
食 堂 ・ 喫 茶	180,368	92.4
サ ー ビ ス	53,020	87.6
そ の 他	194,355	84.5
総 額	6,271,150	100.0

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパズプラザ湯の川店の各店をいう。テーオー小笠原については食料品を扱っていない。

6月

昭和57年7月28日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済は、製造業では飼料や珍味加工等は依然需要が低迷しており、低調な生産、出荷を余儀なくされているが、造船、合板機械が高操業を維持しているほか、肥料も早取り需要に備えフル操業、また漁網、段ボール箱も前年を上回る生産水準を堅持している。さらに、これまで低迷していた建設関連資材も、公共工事の本格化からここへきて生コンの荷動きが上向いてきている。

一方、個人消費面については、大型小売店では主力の季節衣料品が好調な売行きをみせているほか、中元贈答品の荷動きも順調。また、耐久消費財でも、乗用車販売が6か月連続前年を上回ったほか、家電製品もVTR、扇風機等を中心にまずまずの荷動きを示している。この間、企業倒産も引き続き落ち着き気味に推移しているほか、農作物も一部早ばつ被害が懸念されてはいるものの、総じてみればまず順調な生育状況を示しており、管内景況はこのところ幾分明るさを取戻してきている。

○金融面をみると、管内金融機関の実質預金は、法人流動性預金の増嵩を主因に前年を大幅に上回る増加。一方貸出は、全般に資金需要は低調ながら6月中に限ってみれば

自動車ディーラーの増運資金等を中心に前年を若干上回る増加。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は引続き小幅低下。

2. 産業界

○实体经济の動向を主要産業別にみると、製造業では飼料、セメントは依然需要が低迷、珍味加工も夏場需要が盛上がり欠き、いずれも生産、出荷は低調。これに対し造船、製缶・缶詰機械は新規受注の停滞から生産ペースを若干スローダウンさせているものなお高水準の操業を続けているほか、合板機械は既往受注残消化のため、たま肥料も早取り需要に備えフル操業を継続している。さらに、漁網はイカ流し網主体に、また段ボール箱も水産物向け中心にそれぞれ前年を上回る生産水準を維持しているほか、生コンも公共工事の本格化から6月下旬以降ようやく荷動きが上向いてきている。

○一次産業面では、近海イカ漁は、日本海沖中心に水揚量は不漁の前年を上回っており、魚体も大き目。一方、農作物は降雨量の不足から馬鈴薯、牧草の生育がやや遅れているものの、水稻等その他の作物は総じて順調。

○個人消費面をみると、大型小売店の売上げは、主力の衣料品が早目の暑気到来もあって好調な売行きをみせているほか、中元贈答品も食料品を中心にまずまずの出足を示すなど持直し傾向を継続。因みに6月中の市内大型小売店売上高（8カ店）は、前年比5.8%増と前月（同4.4%増）を上回る伸び。一方、耐久消費財は、乗用車新車登録台数（6月中）が前年比32.4%増と3年11か月振りに3割台の伸びを示したほか、家電製品もVTR、扇風機等を中心として前

(前期比257.6%、前年同期比118.2%)と伸びてはいるが、建設業全体としては公共事業の前倒し発注の出足が遅れ、加えて設備工事等は工事進捗度に大きく左右される。さらに下請企業の多い業種なので、元請け各社の官・民需要停滞による過当競争、請負単価の低下の影響を受け下請価格も低下を余儀なくされ悪化が顕在化した。

来期については、今期に比べてD I △12.2、前年同期に比べてD I △39.4で依然として今期同様、低調に推移する見通しである。

【製造業】

今期の生産額を前期比で見ると「増加」している企業と「減少」している企業割合が同じであり、業種によっては季節的要因で好転の兆しをみせている。しかし、前年同期比で見るとD I が△26.4でありまだ低迷状態にある。特に業績が悪化している業種は水産加工業(前期比D I △22.7、前年同期比D I △63.6)であり依然として停滞基調にあり、造船・鉄工関係、セメント、合板等建築資材関係も総じて低調である。

反面好転している業種は漁網関係であり前期比D I 25.0、前年同期比D I 62.5となっている。

来期については、今期に比べてD I △13.3、前年同期に比べて△7.4となっており、依然として停滞基調にある。特に水産加工では先行見通し難のため、業績悪化が予想される。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比でD I が10.2、前年同期比D I がゼロであり季節的增加によりやや回復している。

業種別では前期比、前年同期比とも「医薬品・化粧品」「食料品」等が大幅に増加している。一方、減少を訴えている業種は、繊維・衣服関係や住宅資材等の関連企業である。

また、電気製品や機械器具等は横ばい状態である。

来期については、今期に比べてD I 5.1、前年同期に比べてD I 5.1と僅かながらもやや明るさを予想している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比でD I が△13.4、前年同期比D I △14.6であり依然として停滞基調が続いている。

当期の市内の大型店(現在10店、前年9店)売上状況をみると191億7,166万円(前期比101.3%前年同期比108.4%)と若干増加傾向にあるがその反面、大型店の影響により、「織物・衣服・身の回り品」「飲食品」の業種が前期、前年同期とも大幅に減少している。

また、当期の管内新車登録台数状況を見ると6,706台(前期比110.5%、前年同期比109.8%)と伸びてきている通り、自動車販売業界は、前期比、前年同期比とも売上が増加している企業割合が高くなっている。

来期については、前期比D I △9.8、前年同期比D I △6.1であるが特に「織物・衣服・身の回り品」「飲食品」においては今期と同様傾向にあり、消費の回復の兆しはみられない。

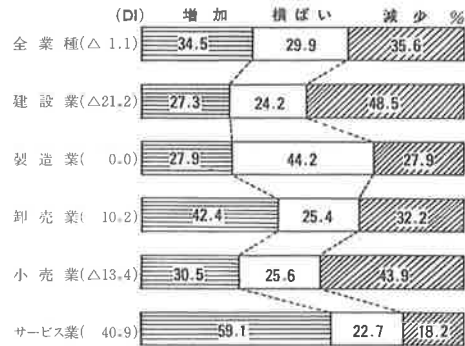
【サービス業】

今期の売上高について、前期比D I 40.9であり、増

加の主たる理由は季節性であり、かかる売上増加基調はある程度予想されたものとはいえ、前年同期比でもD I 13.6であり実質的にも増勢にあり、多少明るさがみられる。

来期については、今期に比べてD I 13.7、前年同期比4.6であり、多少明るい見通しをもっている。

純利益(対前年同期比)



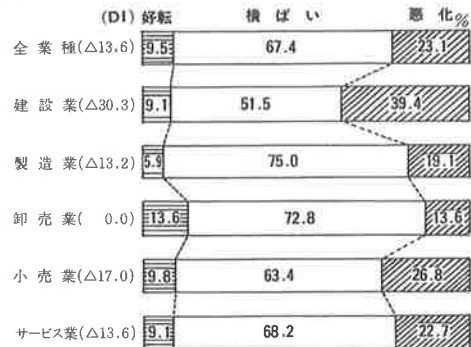
1. 資金繰り状況

今期の資金繰りは前期に比べ「好転」した企業は僅か9.5%に止まり「悪化」した企業が23.1%を占めている。

特に売上不振を反映して建設業、小売業の悪化が目立っている。

来期の見通しについては「好転」する企業割合は7.2%、「悪化」する企業割合が21.6%であり、今期と同様傾向であるが、特に建設業においては「悪化」を予想する企業が約50%を占め、引き続き資金繰り難が続くものと思われる。

【資金繰り】(対前期比)



1. 経営上の問題点

現在最も苦慮している経営上の問題点として、いずれも「売上・受注の不振」をあげる企業が依然として多く全業種で40%を占めており、特に建設業48%、小売業44%、卸売業42%と割合が高くなっている。他に業種別で見ると、建設業では工事単価の値下げ、製造業では、原材料高、景気の見通し難、卸売業では純利益の減少、小売業では客足の減少、サービス業では人件費や経費の増加があげられる。

経済の窓

景況調査速報

(昭和57年度 第1・四半期)

昭和57年度第1四半期の景気動向調査がまとまりましたので概況をお知らせします。

本調査は、今回から、より一層の充実を図るため調査方法、内容等を変えて7月上旬～中旬にかけて本所会員企業（建設業、製造業、卸売業は従業員20人以上、小売業、サービス業は10人以上の中小企業）のご協力のもとに実施いたしました。

なお、調査項目は、今期（57年4月～6月）の景況実績、来期（7月～9月）の景況見通し、経営上の問題点の3点となっており、それぞれにつき受注、生産、売上、製品価格、在庫などの増減、騰落、過不足について調べたほか、資金繰り、純利益、手形期間なども調査しています。

なお調査対象及び回収状況は次の通りです。

回収状況

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	385社	270社	70.1%
建設業	50	34	68.0
製造業	100	69	69.0
卸売業	80	59	73.8
小売業	120	86	71.7
サービス業	35	22	62.9

（注）本調査結果中のD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差引いた値を示します。

1. 業況について

函館地域の企業の今期業況は、前期に比べ「良い」とみる企業が24.6%であるのに対し「横ばい」企業39.4%、「悪い」とみる企業36.0%でD Iが△11.4となっており、冬場不需要期を脱したにもかかわらず依然として低迷状態が続いている。

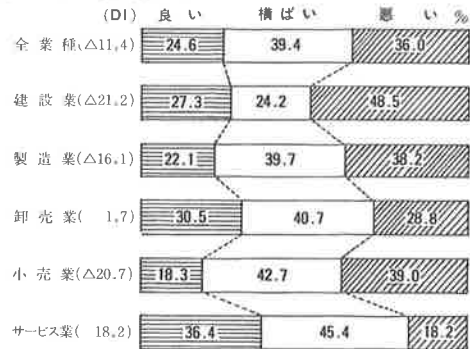
特に、建設業では職種別工事や設備工事、製造業では産水加工、卸売業では繊維関係、小売業では飲食料、衣料品関係が悪い。

来期の見通しとしては、今期に比べて「良い」とみ

る企業が15.2%、「横ばい」企業が58.7%、「悪い」とみる企業が26.1%であり今期同様低調な見通しをしている。

特に、建設業、小売業においては、停滞基調で推移される。

業況（対前期比）



1. 売上額（生産・工事完成額）の状況

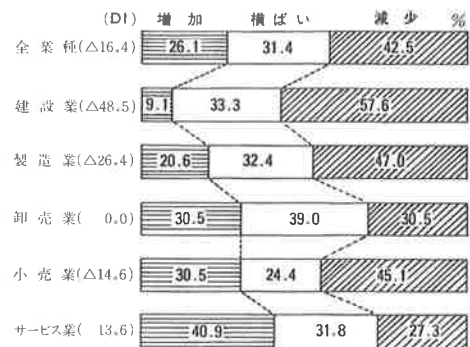
今期は前期が冬場の不需要期であったことから売上が前期と比べ全業種にわたって増加基調にあるのは当然であるが、卸売業、サービス業を除いては伸び悩みが著しい。

前年同期比で建設業、製造業、小売業は、「減少」が「増加」を上回りD Iが△となっており、特に建設業においてそれが著しい。

来期の売上見通しについては、今期同様、卸売業（D I 5.1）、サービス（D I 13.7）以外はD Iが△になっており、いずれも減収基調で推移される。

公共事業前倒し執行の効果浸透や本格的な夏場シーズン入りによる消費需要等増加による景気回復に期待する向きが多いが、現実には中小企業の見方は慎重で、かつ厳しいものがある。

売上（対前年同期比）



【建設業】

今期の工事完成額は、前期比でD I △21.2、前年同期比でD I △48.5と悪化している。このように、建設業全般に業績の悪化が続く中で特に著しいのが職種別工事、設備工事業である。

今期の市内の建築物新築着工件数をみると1,051件

ヒント

榮繁

ぴんと

運転資金の

種類と

調達の方法は

資金繰りを考えるうえでは、運転資金のほか、設備投資を行う場合に必要と設備資金についても述べる必要があると考えますので、小規模企業の多くの方が利用している運転資金について述べることにしましょう。

1 種類

運転資金を大別しますと「経常運

転資金」と「増加運転資金」とに分けられます。しかし、これらの資金についても、使用目的により企業にとって前向きなものもあれば、収益力悪化にもなう資金手当として見込まなくてはならないいわゆる後向資金のものもあります。

① 経常運転資金

経常運転資金とは、通常の経営のなかで、棚卸資産の適正在庫量の維持受取手形、売掛金の適正回収サイトにもなうものとしての必要運転資金が主体となりますが、なかには、業種特性により売上など季節変動が激しいといった企業には季節資金が必要となります。

また、決算資金としての税金納付、配当金、役員賞与などの支出にともなうものもあります。さらに賞与などの年末資金もこれに含まれますが、いずれの場合も借入金に依存す

る場合には、利益と減価償却費から償還が可能であることが期待されており、また、これが必要条件でなければなりません。

② 増加運転資金

増加運転資金には、企業が直面する種々の問題を解決する場合に必要なもので、例えば次のようなときに生じる資金となります。

① 企業の成長にもなう場合――

一般的に企業の成長性の尺度を、売上高、加工高、経営資本、営業利益、経常利益、従業員の増員などの伸びの状況からとらえますが、当然、売上高の伸びについては、量の増加、単価の値上、品種の増加、新規得意先の開拓が考えられます。これらに関して、原材料、商品等の仕入の増加、売掛金債権の増加、買入債務の増加、費用の増加、などの要素によって運転資金の増加となってきます。

② マーケットシェアの拡大政策と

同業他社との販売競争の激化の場合――購入先の力が強くなり、支払条件の変化（長期化）を招きます。従ってそれにもなう運転資金が必要

贈答用に湯川名産ナカニシ漬をどうぞ!!

本店 有限会社 **中西商店** 函館市湯川町2丁目18番5号
TEL59-2988

支店 **フードストア ナカニシ** 函館市湯川町1丁目26番
TEL57-1975

となります。

②インフレ傾向、資源の欠乏の場合——原材料の値上りを招き、その分の運転資金が必要です。

③設備投資の場合——設備投資を行うことにより、変動費、固定費の両費用とも運転資金は増加することになります。

④その他の場合として——赤字の場合、在庫のデットストック化の場合、増資までのつなぎ資金、新製品等の備蓄のための資金などの運転資金が必要でしょう。

2 調達の方法

このような運転資金について、それでは各企業はどのような形でまたどのような方法で調達しているかをみてみましょう。

このように、いろいろな方法によって調達されています。しかし、多くの企業は、①のaによる借入れの方法が取られていることは申すまでもないでしょう。ですがこのように資金調達には種々の方法があり、自企業にとって一番プラスとなる方法

を選択することが最上です。調達が簡単であっても借入条件が悪いもの

などはしっかりと検討してみなければなりません。

方	法	注	意	点	
①	他人資本による調達 a 金融機関借入 ア 長期性運転資金 イ 短期性運転資金 ウ 受取手形担保による エ 受取手形割引による オ 当座貸越契約による b 企業間信用取引 ア 掛による仕入（現金払） イ 支払手形支払 ウ 受取手形の裏書譲渡 エ 未払費用等の繰延 c その他借入 ア 役員、従業員よりの借入 イ 第三者よりの借入 ウ 親会社よりの借入 エ 下請よりの借入 オ 材料等仕入先よりの借入 カ 参加組合、団体等からの借入 ク 従業員預金制度の導入と促進 ケ 社債の発行	借入条件により政府系、民間金融機関の分別担保、証書借入が多い。利息は、短期より高い。根抵当、普通抵当に注意 担保、手形借入（単名）が多い。無担保もある一枚当たり金額、期間（サイト）発行人割引枠一時的なもの 一括払、一括割、メ月締切メ日払の約束 締切は、発行日に加えて期間（サイト）の約束 発行人の信用が無いと受取拒否もある あまり好ましくない 借入条件の明確性、期限、利率、保証人、担保等 経営参加（資本参加、親会社よりの人の派遣）を求められる場合がある 売掛金との相殺返済 材料無償支給への切替 仕入単価が高くなることもある	中小企業投資育成会社等引受の転換社債、無担保社債 税引後利益金額と考えず留保率をみることに 減価償却費から増加運転資金を見込むこと 株主割当 従業員持株制度 取引先募集 一般募集 プレミアムに注意 （一）株評価額） 一定の条件がある	中小企業投資育成会社による出資 d 中小企業投資育成会社による出資 その他 d 中小企業投資育成会社による出資 a 売掛金回収促進 b 受取手形サイトの短縮 c 得意先に対し手形取引を現金払に 転換依頼	

和・洋酒 食料品 たばこ

伊藤商店

代表社員 伊藤芳雄

函館市松川町23-2 ☎41-5768